

**No title available****Publication number:** JP5310549**Publication date:** 1993-11-22**Inventor:** MITSUYAMA SHUNPEI; NAGASHIMA SHINICHI;  
TANAKA SHIGEO; NEMOTO MASAMI; YOSHIDA  
TSUGUCHIKA**Applicant:** TAISHO PHARMA CO LTD**Classification:****- International:** A61K8/30; A61K8/00; A61K8/46; A61K8/96; A61K8/97;  
A61K31/255; A61K36/00; A61K36/18; A61K36/48;  
A61K36/53; A61K36/896; A61P17/00; A61Q19/00;  
A61Q19/08; A61K8/30; A61K8/00; A61K8/96;  
A61K31/21; A61K36/00; A61K36/18; A61K36/185;  
A61K36/88; A61P17/00; A61Q19/00; A61Q19/08;  
(IPC1-7): A61K7/48; A61K7/00; A61K31/255;  
A61K35/78; A61K31/255; A61K35/78**- European:****Application number:** JP19920120877 19920513**Priority number(s):** JP19920120877 19920513**[Report a data error here](#)****Abstract of JP5310549**

**PURPOSE:** To obtain a skin external preparation containing taurine and a specific galenical drug extract, capable of improving softness and elasticity of a skin thinned by senility and preventing aging of skin by stimulating cells. **CONSTITUTION:** The objective skin external preparation is obtained by blending 0.1-10wt.% taurine with 0.1-3wt.% galenical drug extract. The galenical drug extract and taurine are contained in a ratio of (1:10) to (5:1). The galenical drug extract used includes an extract obtained by extracting Lamium album, Viscum apbum, Typha latifolia, Sesamum indicum, Narcissus Tazetta, Tetragonia expanse Murr, Stellaria media cry, Lithospermum erythrorhizon Siebet Lucc, Saxifraga bronchialis, Astragalus sinicus, Eucalyptus globules Labill, Schizonepeta tenuifolia, Aristolochia debilis, Saijou, a herb, Kalimeris yomena, Sinomenium diversifolium Diels, Kapok tree cortex, Lespedeza cuneata, Sophora subprostata chunet T. Chen, Myrica rubra Siebet Lucc, or Bletilla striate Reichb. fl with water, ethanol, 1,3-butylene glycol, glycerol, propylene glycol, dipropylene glycol, squalane, hexane, chloroform, ether, etc.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-310549

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 61 K 7/48		9051-4C		
7/00	K	9165-4C		
	C	9165-4C		
	W	9165-4C		
31/255		8413-4C		

審査請求 未請求 請求項の数2(全8頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平4-120877	(71)出願人	000002819 大正製薬株式会社 東京都豊島区高田3丁目24番1号
(22)出願日	平成4年(1992)5月13日	(72)発明者	満山 俊平 東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製 薬株式会社内
		(72)発明者	長嶋 新一 東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製 薬株式会社内
		(72)発明者	田中 重男 東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製 薬株式会社内
		(74)代理人	弁理士 北川 富造
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 皮膚外用剤

(57)【要約】

【目的】 老化に伴って菲薄化した皮膚の柔軟性、弾力性を改善し、細胞を賦活化して皮膚の老化を防止する、タウリンと特定の生薬エキスを含有する皮膚外用剤を提供する。

【構成】 タウリンを0.1～10重量%、生薬エキスを0.1～3重量%配合した皮膚外用剤。生薬エキスとタウリンとは、1：10～5：1の構成割合で含有される。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】タウリンと生薬エキスを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【請求項2】生薬がオドリコ草、ヤドリ木、がま、ごま、すいせん、つるな、はこべ、紫草、ゆきのした、れんげ草、ユーカリ、けいがい、うまのすず草、さいじょう、よめな、ツツラフジ、モクメンビ、メドハギ、コウズコン、ヤマモモ、シランから選ばれる1種または2種以上であることを特徴とする請求項1記載の皮膚外用剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、皮膚の老化防止効果に優れた皮膚外用剤に関する。

## 【0002】

【従来の技術】皮膚の柔軟性、およびその機能は角質層の含水分により左右される。老化した皮膚では、表皮、真皮とともに細胞数が減少し、代謝機能の低下が生じる。その結果、角質層の水分保持機能が低下し、皮膚が菲薄化した状態になり、柔軟性および弾力性を失い、荒れ肌様の状態になるものと考えられている。このような老化した皮膚の改善剤として、NMF (Natural Moisturizing Factor) と称せられる成分およびコラーゲン、ヒアルロン酸などを配合した化粧料が数多く提案されているが、いまだ皮膚の老化現象を防止するまでは至っていないのが現状である。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】従って本発明の目的は、皮膚に柔軟性と弾力性を付与し、さらに細胞を賦活化して皮膚の老化を防止することにある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】タウリンはすべての動物の体内に存在する生理的成分で、組織の酸素利用を促進し、細胞を賦活するといわれ、損傷した皮膚の治癒を促す働きをもつことが知られている。そこで本発明者らは、斯かる知見を考慮して研究を重ねた結果、タウリンと特定の生薬エキスとを含有した製剤が、皮膚細胞の代謝を促進し、老化肌を顕著に改善することを見いだし、本発明を完成するに至った。本発明に用いられる生薬エキスとしては、オドリコ草、ヤドリ木、がま、ごま、すいせん、つるな、はこべ、紫草、ゆきのした、れんげ草、ユーカリ、けいがい、うまのすず草、さいじょう、よめな、ツツラフジ、モクメンビ、メドハギ、コウズコン、ヤマモモ、シランを水、エタノール、1, 3-ブチレングリコール、グリセリン、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、スクワラン、ヘキサン、クロロホルム、エーテル等で抽出したエキスがあげられる。生薬エキスの含有量は、皮膚外用剤全量の0. 01～1. 0重量%が好ましく、更に好ましくは0. 1～3重量%である。タウリンの含有量は、皮膚外用剤全量の

10

20

30

40

50

0. 01～1. 5重量%が好ましく、更に好ましくは0. 1～1. 0重量%である。生薬エキスとタウリンとは、1:10～5:1の構成割合で含有される。

【0005】本発明の皮膚老化防止剤は、常法に従って、乳液類、ローション類、軟膏類、クリーム類、パック類、ファンデーション等の剤型に調製することができる。

【0006】本発明の皮膚老化防止剤には、前述の必須成分に加えて通常皮膚外用剤に用いられる成分を含むことができる。1, 3-ブチレングリコール、1, 4-ブチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン、ジグリセリン、マルチトール等のポリオール、エチルアルコール、イソプロピルアルコール、精製水等の溶媒、パラベン、安息香酸等の保存剤、硫黄、塩酸クロルヘキシジン、塩化セチルビリジン、塩化デカリニウム、イソプロピルメチルフェノール、第4級アンモニウム塩（例えば、塩化ベンザルコニウム）、ヒノキチオール等の殺菌剤、白色ワセリン、流動パラフィン、固体パラフィン、セレシン、マイクロクリスタリンワックス、コレステロール、スクワラン、オリーブ油、ローズヒップ油、ミンク油、ホホバ油、硬化ヒマシ油、硬化ヤシ油、硬化バーム油、ミツロウ、パルミトイン酸、リノール酸、リノレン酸、オレイン酸、ステアリン酸、パルミチン酸、ベヘニン酸、ラウリン酸、ステアリルアルコール、セチルアルコール、ラウリルアルコール、オレイルアルコール等の油分、イソオクタン酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、カプリン酸エチル、カブリル酸エチル、モノステアリン酸グリセリン、モノオレイン酸プロピレングリコール、モノオレイン酸グリセリン、モノカプリン酸ソルビタン、クエン酸モノステアリン酸グリセリン、ジステアリン酸ジグリセリン、モノラウリン酸デカグリセリル等のエステル、シリコーンオイル、ポリオール変性シリコーン、シリコーン樹脂等のシリコーン誘導体、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリグリセリンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油等の非イオン性界面活性剤、N-アシルアミノ酸塩、N-アシルサルコシン塩、アルキル磷酸エステル塩、アシルメチルタウリン塩等の陰イオン性界面活性剤、アルキルトリメチルアンモニウム、ジアルキルジメチルアンモニウム、アルキル-N, N-ジアルキルアミノ酢酸エステル等の陽イオン性界面活性剤、ベタイン、イミダゾリン、アミンオキシド等の両性界面活性剤、カゼイン等の高分子界面活性剤、メチルセルロース、ヒドロキシプロビルセルロース、カルボキシビニルポリマー、ポリビニアルコール等のゲル化剤、ジイソプロパノールアミン、酒石酸、乳酸、酢酸、クエン酸、L-グルタミン酸、L-アスパラギン酸等のpH調節剤、ジブチルヒドロキシトルエン、亜硫酸水素ナトリウ

ム、カテキン、エリソルビン酸、 $\alpha$ -トコフェロール、 $\beta$ -トコフェロール、 $\gamma$ -トコフェロール、 $\delta$ -トコフェロール等の酸化防止剤、モンモリロナイト、サボナイト、ヘクトライト、酸化チタン、カオリン、タルク等の粘土鉱物、着色剤を本発明の効果を損なわない範囲内で配合することができる。また必要に応じて、グリシン、 $\alpha$ -アラニン、 $\beta$ -アラニン、 $\gamma$ -アミノ酪酸、 $\epsilon$ -アミノカプロン酸等のアミノ酸類、ビタミンA、ビタミンB<sub>1</sub>、ビタミンB<sub>2</sub>、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE及びビタミンE酢酸エステル等のビタミン類、塩化亜鉛等の収れん剤、アルブチン、コウジ酸、グラブレジン等の美白剤、L-メントール、リモネン、カンフル等の清涼化剤、グリチルレチン酸、グリチルリチン酸ジカリウム、塩化ペルペリン、シコニン、グアイアズレン、アラントイン等の抗炎症剤、ニコチニン酸メチル、ニコチニン酸ベンジル、シュエルチマリン、カプサイシン等の末梢血管拡張剤、酢酸ハイドロコーチゾン、吉草酸ベタメタゾン等の副腎皮質ホルモン、塩酸ジフェンヒドラミン、塩酸イソチベンジル等の抗ヒスタミン剤、塩酸ジブカイン、塩酸リドカイン等の局所麻酔\*20

\*剤、尿素、サリチル酸等の角質溶解剤、ビタミンA酸、13-シス-レチノイン酸及びエトレチネート等の角化調整剤、17 $\beta$ -エストラジオール、エチニルエストラジオール、エストロン等の卵胞ホルモン、プロゲステロン、17 $\alpha$ -ヒドロキシプロゲステロンアセテート等の黄体ホルモン、金属イオン封鎖剤、紫外線吸収剤、朝鮮人参エキス、竹節人参エキス、サフランエキス、靈芝エキス、ジュエキス、ジイソプロピルアセテート、ピロリドンカルボン酸、ポリグルタミン酸、ポリオキシアルキレンアルキルグルコシドエーテル、コラーゲン、レシチン、セラミド等の保湿又は使用感を高める成分を配合することができる。また、リボソーム、マイクロカプセルを製剤に配合することもできる。

## 【0007】

【発明の効果】本発明により、皮膚の老化現象を防止する外用製剤を提供することが可能となった。

## 【0008】

【実施例】以下に実施例を挙げ、本発明を具体的に説明する。

## 【0009】実施例1

原 料 成 分	含有量(重量%)
オドリコ草エキス(エタノールエキス)	0.3
タウリン	2.0
アラントイン	0.5
ミリスチルアルコール	1.0
ステアリルアルコール	1.4
スクワラン	8.0
白色ワセリン	2.5
パルミチン酸	1.0
ステアリン酸	0.7
バラベン	0.1
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート	4.0
グリセリルモノステアレート	1.0
グリセリン	5.0
水酸化カリウム	適量
水	残量

【0010】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添

加し、乳化、冷却しクリームを得た。

【0011】実施例2

原 料 成 分	含有量(重量%)
やどり木エキス(ジプロピレングリコールエキス)	2.0
タウリン	1.0
朝鮮ニンジンエキス	1.0
グリチルレチン酸	0.5
流動バラフィン	20.0
白色ワセリン	35.0
固体バラフィン	5.0
1, 3-ブチレングリコール	1.0
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート	2.0
ソルビタンモノオレート	4.0
モノステアリン酸	2.0
プロピレングリコール	2.0
ビタミンA酸	0.05
水	残量

【0012】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶 \* 加し、乳化、冷却し軟膏を得た。

解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添\* 【0013】実施例3

原 料 成 分	含有量(重量%)
れんげ草エキス(スクワランエキス)	2.0
タウリン	1.5
スクワラン	15.0
白色ワセリン	7.0
セレシン	2.0
モノオレイン酸グリセリン	2.0
ジステアリン酸ジグリセリル	2.0
ミツロウ	1.0
マイクロクリスタリンワックス	2.0
1, 3-ブチレングリコール	2.0
ジプロピレングリコール	1.0
水	残量

【0014】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶 \* 加し、乳化、冷却しクリームを得た。

解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添\* 【0015】実施例4

原 料 成 分	含有量(重量%)
うまのすず草エキス(エーテル抽出エキス)	0.2
タウリン	0.5
ステアリン酸	1.0
イソステアリン酸	1.0
セタノール	0.5
ステアリルアルコール	0.5
白色ワセリン	2.0
スクワラン	10.0
モノオレイン酸グリセリン	1.5
グリセリンモノステアリルエーテル	1.5
イソプロピルメチルフェノール	0.1
ビタミンEアセテート	0.05
プロピレングリコール	3.0
カルボキシビニルポリマー	0.1
クエン酸	適量
水	残量

【0016】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶 50 解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添

7

8

加し、乳化、冷却しクリームを得た。

\* \* 【0017】実施例5

原 料 成 分	含有量(重量%)
メドハギエキス(エタノールエキス)	0.3
タウリン	2.0
コレステロール	1.0
セチルアルコール	0.5
ステアリルアルコール	0.4
スクワラン	5.0
パルミチン酸	0.9
ステアリン酸	0.7
パルミトレン酸	0.2
バラベン	0.1
ビタミンEアセテート	0.5
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート	4.0
β-トコフェロール	0.2
ソルビタンモノステアレート	1.0
シリコーン	5.0
水	残量

【0018】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶  
※加し、乳化、冷却しクリームを得た。  
解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添※20 【0019】実施例6

原 料 成 分	含有量(重量%)
コウズコンエキス(ジプロピレングリコールエキス)	0.3
タウリン	1.0
ベヘニン酸	0.7
イソステアリン酸	1.0
スクワラン	1.0
トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリル	5.0
白色ワセリン	3.0
グリセリルモノステアレート	2.0
セタノール	0.8
β-トコフェロール	0.1
バラベン	0.2
プロピレングリコール	5.0
グリセリン	5.0
エチニルエストラジオール	0.006
カルボキシビニルポリマー	0.1
水	残量

【0020】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶  
加し、乳化、冷却しクリームを得た。  
解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添  
【0021】実施例7

原 料 成 分	含有量(重量%)
ヤマモモエキス(エタノールエキス)	0.1
タウリン	0.5
スクワラン	20.0
ラノリン	1.0
マイクロクリスタリンワックス	1.0
イソオクタン酸セチル	4.5
ピーガム	0.5
ポリオキシエチレンジイソステアリン酸	0.2
ジステアリルジメチルアンモニウムクロライド	0.2
塩化ナトリウム	1.0
バラベン	0.1
L-アスパラギン酸ナトリウム	0.1
コウジ酸	0.3
グリセリン	15.0
マルチトール	5.0
水	残量

【0022】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添\* \* 加し、乳化、冷却しクリームを得た。

【0023】実施例8

原 料 成 分	含有量(重量%)
シランエキス(1,3-ブチレングリコールエキス)	0.3
タウリン	3.0
ビタミンA酸	0.1
ジプロピレングリコール	6.5
スクワラン	7.5
グリセリン	7.5
セチルアルコール	1.0
ステアリルアルコール	2.0
イソオクタン酸セチル	3.0
バルミチン酸	0.5
ステアリン酸	1.5
Y-リノレン酸	0.2
エチルバラベン	0.2
ブチルバラベン	0.1
ビタミンEアセテート	0.05
モノステアリン酸グリセリン	1.0
塩化亜鉛	0.1
シリコーン	0.9
BHT	0.1
クエン酸	0.2
水	残量

【0024】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添\* 40 加し、乳化、冷却しクリームを得た。

【0025】実施例9

原 料 成 分	含有量(重量%)
がまエキス(エタノールエキス)	0.3
タウリン	0.5
グリセリン	5.0
1,3-ブチレングリコール	3.0
メチルパラベン	0.1
ヒノキチオール	0.1
ポリオキシエチレンソルビタンモノラウレート	2.0
エタノール	7.0
レーメントール	0.2
クエン酸	適量
オキシベンゾン	適量
香料	適量
水	残量

【0026】精製水にグリセリン、1,3-ブチレングリコール、オキシベンゾンその他水溶性成分を加え室温下に溶解した。一方、エタノールに界面活性剤、防腐\*

\*剤、香料を加え溶解し、先の精製水部に加え化粧水を得た。

【0027】実施例10

原 料 成 分	含有量(重量%)
オドリコ草エキス(エタノールエキス)	0.3
タウリン	2.0
アラントイン	0.5
ミリスチルアルコール	1.0
ステアリルアルコール	1.4
スクワラン	8.0
白色ワセリン	2.5
バルミチン酸	1.0
ステアリン酸	0.7
バラベン	0.1
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート	4.0
グリセリルモノステアレート	1.0
グリセリン	5.0
水酸化カリウム	適量
水	残量

【0028】油相に油溶性成分及び界面活性剤を加温溶解し、有効成分及び水溶性成分を加温溶解した水相を添

加し、乳化、冷却しクリームを得た。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. 5	識別記号	府内整理番号	F 1	技術表示箇所
A 61 K 35/78	V	7180-4C		
	J	7180-4C		
	Q	7180-4C		
	W	7180-4C		
	ADA C	7180-4C		

//(A 61 K 35/78

31:255)

8413-4C

(72)発明者 根本 正美

東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製  
薬株式会社内

(72)発明者 吉田 繼親

東京都豊島区高田3丁目24番1号 大正製  
薬株式会社内